

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	88	実施計画番号	37	
事務事業名	木造老朽校舎の改築		事業開始年度	—
担当課名	教育総務課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	公立の義務教育諸学校施設の整備に関する施設整備基本方針	関連事務事業		
背景や経緯等	米田小・大不動小・四和中の老朽化と滝沢小を含む4校の児童・生徒数減少により、これらの小学校を統合するとともに四和中学校を併置し、現在の四和中敷地内に新校舎及び屋内運動場を建設する。 また、伝法寺小学校は閉校して藤坂小学校と統合し、老朽化が著しい藤坂小学校特別教室棟について、改築工事を実施する。			
事務事業の目的	老朽化した校舎について、計画的な整備を進め、危険校舎の解消と教育環境の充実を図る。			
実施状況	四和地区統合小中学校建設事業:校舎及び屋内運動場の建設工事、学校備品購入 藤坂小学校特別教室棟改築事業:特別教室棟建設工事、旧特別教室棟解体工事			

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	2	2	
	活動日数(日)	50	244	
	人件費(千円)	3,600	17,568	0
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)	265,337	1,420,309	
うち一般財源	14,037	200,127	
うち国県支出金	251,300	558,929	
うち地方債		10,253	
うちその他		651,000	

【指標】

活動指標	活動指標名①	木造老朽校舎改築工事実施件数				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		件	0	3		
	活動指標名②					
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
成果指標	成果指標名①	木造老朽校舎の削減学校数				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		件	目標値	3	3	
			実績値	0	3	
			達成度(%)	0%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	88
計画No	37

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学校施設は児童・生徒等が一日の大半を過ごす活動の場であり、その安全性と利便性は極めて重要である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	学校施設は児童・生徒等が一日の大半を過ごす活動の場であり、その安全性と利便性は極めて重要である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
学校施設は児童・生徒等が一日の大半を過ごす活動の場であり、その安全性と利便性は極めて重要である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業は順調に推移し、平成24年度末現在、完了した。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	事業は順調に推移し、平成24年度末現在、完了した。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	事業は順調に推移し、平成24年度末現在、完了した。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設計時においてコストに無駄がないように配慮した。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	設計時においてコストに無駄がないように配慮した。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	設計時においてコストに無駄がないように配慮した。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">本事業を実施することにより、児童・生徒等に及ぶ危険性や不便な面が解消され、受益の偏りを是正することになる。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	本事業を実施することにより、児童・生徒等に及ぶ危険性や不便な面が解消され、受益の偏りを是正することになる。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
本事業を実施することにより、児童・生徒等に及ぶ危険性や不便な面が解消され、受益の偏りを是正することになる。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **廃止**

方向性の理由
事業が完了し、木造老朽校舎は解消された。
今後の具体的な取組方策と狙う効果